

学校教育目標 「心豊かな生徒」「自ら学ぶ生徒」「心身ともにたくましい生徒」

校 訓 「自主・責任・規律・親和」 R6. 8. 9発行 文責 校長 本多 博

### 長崎に原爆が投下されてから79年目の夏 8月9日は、私たちが「平和」について考える大切な一日です

南部中学校平和祈念集会 校長講話より

今年は長崎に原子爆弾が投下されてから79年目となります。79年前の8月9日、真夏の太陽が照りつける午前11時2分、B29「ボックスカー」が投下した一発の原子爆弾が、長崎市松山町の上空約500mでさく裂しました。一瞬の閃光、そして摂氏100万度を超える火の玉から発せられた強烈な熱線と爆風、さらには大量の放射線が長崎の町を襲いました。その当時の悲惨な状況は、被爆体験講話で山田一美（かずみ）さんの被爆当時のお話を通して知ることができたと思います。私たちは、相手の痛みや苦しみを、自分の痛みや苦しみとして感じ捉える力が必要です。火傷で背中中の皮全部めくれて破れたボロ布のようになって垂れ下がった人の苦しみ、爆風で目をやられて眼球が飛び出した人の痛み、愛する家族や友達が黒焦げの亡骸となる悲しみを、自分の苦しみ、悲しみ、痛みとして捉える力が必要です。79年前の8月9日がどんな悲惨な日だったか、その8月9日以降にも、原爆の後遺症でどれほど多くの人が苦しみ、悲しみそしてお亡くなりになったか、私たちは忘れてはいけません。

戦争は、命と人権を平気で踏みつける行為です。しかし、世界に目を向けると、ロシアによるウクライナ侵攻は3年目を迎えた現在も一向に終わりが見えません。イスラエル・パレスチナ情勢も悪化の一途をたどり、この瞬間も、多くの罪もない人々の命と日常が奪われています。平和な日本で生まれ、生活している私たちにできること。それはまず、過去の戦争や現在の紛争についてきちんと学び、平和や命の大切さについて真剣に考えることです。そして、繰り返しになりますが、自分に関係のない過去の出来事や遠い国の出来事ではなく、その事実を自分事として受け止め、自分の痛みや苦しみ、悲しみとして感じる力をもつことです。(中略)戦争の悲惨さを学び、平和な世界を実現するため私たちにできることを考えてきたと思います。その学びを、平和な社会を実現する力に変えてください。

生徒の皆さん一人ひとりの「平和」を願い、思う気持ちは、決して無力ではありません。皆さんが、この社会を「平和」に導く希望となることを固く信じて、南部中学校平和祈念集会の校長講話といたします。

### 令和6年度 南部中学校「平和宣言」(抜粋)

私たちは、平和な世界の実現のために何ができるかを考え、行動していかなければなりません。そのために次のことを宣言します。

- 一、いじめをなくし、誰もが毎日を楽しく過ごせる学校にします。
- 一、自分の気持ちだけでなく相手の気持ちも大切にします。
- 一、納得のいかないことがあったら、話し合いで解決します。

令和6年8月9日 平戸市立南部中学校 生徒一同